

販促カレンダー＜3月＞ 弥生

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
				東京千体荒神大祭(ゝ28日)		奈良薬師寺花会式(ゝ31日)	彼岸明け	世界気象デー	奈良法隆寺会式(ゝ24日)	●春分の日			彼岸入り、石川気多大社おいで祭(ゝ23日)		十六団子	愛知田縣神社豊年祭、京都嵯峨釈迦堂お松明式	ホワイトデー	奈良春日大社春日祭、		滋賀近江八幡左義長まつり(ゝ14日)	宮城鹽竈神社帆手祭	茨城鹿島神宮祭頭祭	国際婦人デー	消防記念日	啓蟄、宮城竹駒神社初午大祭(ゝ12日)			桃の節句、ひな祭り	奈良東大寺二月堂修禪会(ゝ14日)福井若狭彦神社お水送り(ゝ14日)	



国際経営株式会社
KOKUSAIKEIEI co.,ltd

2023年
3月号



死後、自分の葬儀で蘇り

参列者と会話する

幽霊のようなAI技術

AI技術はめまぐるしい進歩を遂げているが、リアルな幽霊を生み出すという最新技術が登場した。自身の葬儀でホログラムとなって蘇り、参列者と会話を交わすことができるのだという。

AI技術はめまぐるしい進歩を遂げているが、リアルな幽霊を生み出すという最新技術が登場した。自身の葬儀でホログラムとなって蘇り、参列者と会話を交わすことができるのだという。

イギリスのノッティンガムで、昨年6月にマリナ・H・スミスさん(享年87歳)という女性が生きて、葬儀には故人の生前を知る多くの人々が参列した。葬儀

まず最初に、会話する話題を子供時代や人間関係、過去の経験など、いくつかの質問を2分間で答えるようにまとめる。映像上で故人が生き返ったかのように会話しはじめるのだという。

20台の同期カメラで撮影された映像は専門家によって処理され、マリナさんの会話を模倣した自然な姿で、参列者の質問に回答するようAIシステムがトレーニングされた。実際には言わなかったことを言わせることができる「ディープフェイク」技術とは異なり、本物の応答を使用し、適切な答えがない場合、故人が直接、対話者に別の質問をするよう促すという。この技術は、まるでマリナさんとの場で実際に会話をしているかのような錯覚を生み出し、葬儀の参列者を大いに驚かせた。

記録されたデータにより、葬儀の参列者は、亡くなった愛する人の、真実の表情や言葉を手に入れることができるかもしれません。

でしたが、共有された情報のほとんどは参列者には知られていませんでした。母の両親の離婚やインドからの移民としての生活などを、葬儀で初めて知ったのです。母を見送った後、悲しみに暮れる親戚たちは、AI技術により母が質問に答え、新たにそのような過去を知ることができたことに非常に驚いていました。



2023年1月2日
カラパイア

霊柩車にド派手な装飾 乗っていた理由(前編)

2023年1月31日 Mermi



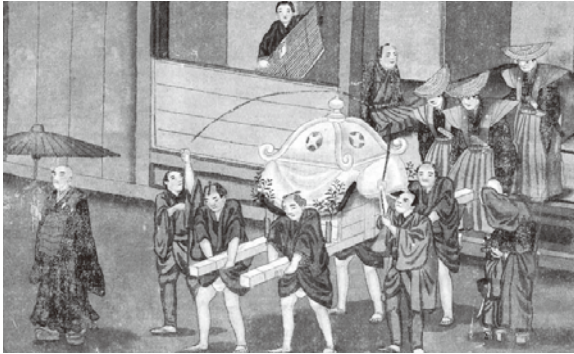
トラック運送と法律上は同じ

遺体を運ぶ霊柩車が、一般貨物自動車運送事業であることは意外と知られていない。遺体は、法律上「貨物」なのである。病院から葬儀場、火葬場へと遺体を運ぶ霊柩車。最近は見かけないが、昭和のころはよく神輿のようにデコラティブな霊柩車を見かけたものだ。

遺体を自動車で行く行為は運送事業であり、遺体を搬送する業者は「霊きゅう運送に限り」という条件が課せられ、遺体以外を運ぶ事業はできない。では昔はどうだったのかと歴史をひもとくと、霊柩車の歴史は道路交通の歴史とともに刻まれてきた。

江戸・明治期の葬礼

江戸時代の葬礼では、駕籠



明治に入ると人力車が生まれ、ひつぎは大八車に付けた輿に入れて運ばれるようになる。庶民にとっても、駕籠ではなく豪華な輿が一般的となる。

江戸時代から明治にかけて、遺体を菩提寺まで運ぶことを「葬列」といった。地方では昭和の中頃まであったのではないだろうか。遺族や縁のある者、町内の者が、故人と別れを告げるための儀式のひとつであった。江戸時代まで葬列は、明け方または夕方ひっそりと行われるものだった。しかし、大政奉還に四民平等、自由民権運動、廃仏毀釈(きしゃく)と大きく様変わりした社会は、葬礼への倫理観も変える。富裕層にとつて、葬礼は婚礼と同様に財力の誇示の機会となったのだ。

大八車の輿はどんどん豪華な彫刻や金銀の箔(はく)が施され、葬列には遺族や町内の衆に加え、「奴」という踊り連がいた。放鳥を行い、大量の花を生けて別の車で運んだ。年頃の

娘には振り袖を着せて参加させる葬列も珍しくなかった。これではまるで、葬列ではなく大名行列か吉原の花魁(おいらん)道中だ。実際、当時の葬祭業は、職をなくした大名行列や花魁道中などを請け負った業者や職人が商売替えをして始めたものが多かったという。ケガレの儀がハレの場となった遺体を運ぶ葬列は、当然大名行列のごとく道路を独占した。

しかし、道路交通の近代化は刻々と進む。都市部に人口は集中し、人力車が物が物顔で走り行く。都市部には市電が走り始め、人々は目的地まで電車や人力車を使うようになった。こうなると、道路には「人」よりも「車」が多くなる。ついには、葬礼等で道路をふさぐことはまかりならんという世論が、にぎやかな葬礼は日本の文化だという層を上回るようになっていった。奴連はなくなり、放鳥も花車(きゃしゃ)もなくなった。時代は改正、いよいよ自動車時代の始まりだ。

〈4月号へ続く〉

優しくしてくれた男性の葬儀に現れたサル

スリランカ、バティカロア地方に住む56歳のピータンバラム・ラジャンさんが急病で亡くなりました。葬儀の日、家族や友人たちは故人を悼み、悲しみに打ちひしがれているところに1匹のサルが現れます。

生前のピータンバラムさんは動物好きで知られ、オナガザルのメスに毎日食事をあげていたそうです。葬儀の場に現れたのは、彼がかわいがっていたそのメスザルでした。ピータンバラムさんが眠る棺の縁に座ったサルは、何度も彼の顔に触れたり、自分の顔を近付けたりしています。サルは「ねえ起きて」というように、ピータンバラムさんの腕をつかんで揺り動かしました。サルが示したピータンバラムさんへの感謝や愛情は、きつと彼に届いていることでしょう。真実の愛というハッシュタグ付きでTwitterに投稿されたこの動画は、多くの人の涙を誘ったようです。

2022年11月3日
grape編集部

DX化とIoT技術を活かした、半無人会館がオープン

葬儀DXを推進するライフエンディングテクノロジー株式会社（東京都）が、新時代型スマート葬儀システムをプロデュース。先駆けとなる葬儀会館「家族葬のいとしえ上末吉」（横浜市）が令和5年1月30日にオープンしました。

上末吉ホールは、コンビニエンスストアの跡地をリノベーション。当社がプロデュースした最新システムを導入した「新時代型スマート葬儀会館」の第一号店で、今後は、同様のノウハウとシステムを全国の葬儀社様へライセンス販売していく方針です。

デジタル祭壇

葬儀業界では人手不足が課題となっていますが、その要因の一つに従業員の「待ち時間」があります。葬儀がいつ必要となるか、いつ相談者が来館されるかわからない性質上、スタッフの配置が必要でした。このため人件費など、実務以上のコストが生じ、お客様の葬儀費用の高額化につながっています。この課題に対し、当社はこれまで手掛けてきた「スマート葬儀」をはじめとするDX技術やデジタル映像システム、IoT技術を最大限に活用することで、葬儀に必要なコストを大幅に削減し、安価なお葬式を提供できる会館運営のシステムを構築しました。

葬儀の際、お客様の大きな費用負担となるのが、祭壇の飾りつけです。上末吉ホールでは祭壇に高さ約3m・幅約5mの壁面に飾りつけを含めた祭壇をデジタル投影することで、費用や準備期間を大幅に削減、従来に比べ安価にできるようなっています。また、思い入れある場所やお亡くなりになった方の好きだったものの映像などを投影し、思い出と真心に溢れたお葬式を演出します。

IOT機器を活用

葬儀会館では、いつも来館す



2023年1月13日
PR TIMES (LET)

ペットが全面的に参加できるお葬式

株式会社J A東京中央セレクトセンター（東京都）は、ペットも飼い主との最後のお別れをしつかりしたいはずであるとしてペットが全面的に参加できるお葬式「ペットに見送られる私の葬儀」を企画しました。ペットを愛し、いつくしむ多くの方々に賛同をいただけるものと考えています。

プランの特徴

病院へのお迎え（駐車場待機）／葬儀に参列／ペット用の喪服と数珠プレゼント／ペットシッターのお手配／ケージ&マット完備／ドッグラン／霊柩車同乗可



2023年1月11日 PR TIMES
（株式会社J A東京中央セレクトセンター）

【東照公のご遺訓】

忍耐の中から様々な「気づき」を得た徳川家康に学びます。

③勝事ばかり知て負けることをしられば害其身に至る

現代訳：勝つてばかりで負けを知らないと、逆境に陥ったときに乗り越えられない。

これは、武田信玄と戦って惨敗したときに放った名言です。負けを知らずにずっと勝ち続けていると、次第に慢心が生まれ、次ぎに挫折してしまったり、勝つための戦略を怠けたりと油断が生まれます。そうならないためにも、負ける経験は必要だと家康は言っているのです。負けることは必ずしも悪いことではないですね。

語り愛

カレンダー

●三月のご命日●

「故人様と同じ日に、
こんな方がお亡くなりになっています…」
そんな一言をきっかけに、
傷心の喪主様へ、さりげないたわりのお声がけを。

一日 (水) 昭和二十七年(一九五二年)

久米 正雄 (小説家)

『新思潮』に『牛乳屋の兄弟』等を発表。のち感傷的作風の通俗小説に転じ、流行作家となる。「微笑」という語を造った。

二日 (木) 平成十八年(二〇〇六年)

久世 光彦 (テレビプロデューサー)

『寺内貫太郎一家』や『時間ですよ』などテレビ史に残る数多くのテレビドラマを演出。作家としても幅広い執筆活動を行った。

三日 (金) 元禄十六年(一七〇三年)

ロバート・フック (物理学者)

「フックの法則」や『顕微鏡図譜』の発刊などで知られ、実験と理論の両面を通じて科学革命で重要な役割を演じた。

四日 (土) 友引 平成十四年(二〇〇二年)

半村 良 (小説家)

SF作家としては初の直木賞を受賞。しかし、受賞作はSFではなく、人情小説『雨やどり』であった。代表作は『戦国自衛隊』等。

五日 (日) 平成二十五年(二〇一三年)

納谷 悟朗 (俳優・声優)

俳優として活躍する傍ら、外国映画の吹き替えで人気となった。代表作は『ルパン三世』シリーズの銭形警部役。

六日 (月) 昭和二十三年(一九四八年)

菊池 寛 (小説家・実業家)

『父帰る』等の作品で知られる。作家活動以外でも文藝春秋社の創設、「芥川・直木賞」、「菊池寛賞」の設立など数々の功績を残す。

七日 (火) 平成二十七年(二〇一五年)

辰巳 ヨシヒロ (漫画家)

コマ数を多く使ったよりリアルな作風「劇画」を確立。仏アングレーム国際漫画祭特別賞を受賞するなど、特に海外で高い評価を受けた。

八日 (水) 昭和三十二年(一九五七年)

ジョー・デイマジオ (メジャーリーガー)

五十六試合連続安打の大記録で有名な、ヤンキースのスーパースター。マリリン・モンローの元夫としても知られる。

九日 (木) 昭和四十五年(一九七〇年)

水野 利八 (実業家)

スポーツ用品メーカー「ミズノ」の創業者。西洋的なスポーツの普及や青少年の育成に尽力し、藍綬褒章などを受章。

十日 (金) 友引 平成二十九年(二〇一七年)

ロバート・ジェームズ・ウォラー (小説家)

世界的ベストセラーとなり、映画化もされた小説『マディソン郡の橋』の著者。日本を含めた40カ国以上で1200万部以上販売。

十一日 (土) 昭和二十五年(一九五〇年)

川村 吾蔵 (彫刻家)

海外で活躍した彫刻家。ニューヨーク市に多くのモニュメント彫刻を完成させたほか、乳牛像、著名人の胸像製作で高い評価を得た。

十二日 (日) 平成七年(一九九五年)

法月 惣次郎 (発明家)

日本初のパラボラ式電波望遠鏡をはじめ、約四百台の望遠鏡を製作。日本の天文学を支えた。

十三日 (月) 昭和二十六年(一九五一年)

原 民喜 (詩人・小説家)

詩や短編小説を文芸雑誌『三田文学』に発表。代表作は自身の広島での原爆体験を基にした小説『夏の花』。

十四日 (火) 平成二十四年(二〇一二年)

榎本 喜八 (プロ野球選手)

オリオンズを中心選手として長きに渡って活躍し、「ミスターオリオンズ」と呼ばれた。一塁手で9度のベストナインを獲得。

十五日 (水) 昭和五十六年(一九八一年)

堀口 大樹 (詩人・歌人)

フランス詩の訳詩集「月下の一群」で日本の文壇に新風を吹き込み、日本現代詩の発展に貢献した。

十六日 (木) 友引 昭和十五年 (一九四〇年)

セルマ・ラーゲルレーヴ (小説家)

『ニルスのふしぎな旅』で有名なスウェーデンの作家であり、女性初のノーベル文学賞受賞者。

十七日 (金) 嘉永五年 (一八五三年)

クリスチャン・ドップラー (物理学者)

周波数と速度による「ドップラー効果」を研究し、数学的な関係式をつくった物理学者。

十八日 (土) 昭和八年 (一九三三年)

吉野 作造 (政治学者・思想家)

東京帝国大学で教壇に立ち、「民本主義」による政治を提唱した思想家。大正デモクラシーの立役者となった。

十九日 (日) 平成二十年 (二〇〇八年)

アーサー・C・クラーク (SF作家)

豊富な科学的知識に裏打ちされたリアルなSF作品が特徴。代表作に『2001年宇宙の旅』がある。

二十日 (月) 平成十六年 (二〇〇四年)

いかりや 長介 (タレント・俳優)

『ザ・ドリフターズ』の3代目リーダー。俳優としても活躍し、『踊る大捜査線』ではベテラン刑事、和久平八郎役を演じた。

二十一日 (火) 昭和五十二年 (一九七七年)

田中 絹代 (女優・映画監督)

黎明期から日本映画界を支えた大スターであり、日本映画史を代表する大女優の一人。

二十二日 (水) 友引 平成十七年 (二〇〇五年)

丹下 健三 (建築家)

「世界のタンゲ」と言われ、国外でも活躍し戦後から高度経済成長期にかけて、多くの国家プロジェクトを手がけた建築家。

二十三日 (木) 平成二十二年 (二〇一〇年)

長沢 二郎 (競泳選手)

バタフライにおける「ドルフィンキック」を発明。当時の200メートルバタフライの世界新記録を更新した。

二十四日 (金) 安永四年 (一七七六年)

ジョン・ハリソン (時計職人)

渡洋航海に必要とされる経度の測定が可能な精度をもった機械式時計 (クロノメーター) を初めて製作した。

二十五日 (土) 明治四十四年 (一九一一年)

青木 繁 (洋画家)

近代日本美術史で最も著名な洋画家の一人。代表作『海の幸』をはじめ、若くして日本美術史上に残る有名作を次々と描き上げた。

二十六日 (日) 昭和十年 (一九三五年)

与謝野 鉄幹 (歌人)

文芸誌『明星』を主宰。白秋や啄木などを見出し、日本近代浪漫派の中心的役割を果たした。妻は同じく歌人の与謝野晶子。

二十七日 (月) 平成十九年 (二〇〇七年)

植木 等 (コメディアン・俳優)

クレイジーキャッツの一員として一世を風靡したコメディアン。数々のヒットギャグ、ヒット曲を世に放った。

二十八日 (火) 友引 昭和五年 (一九三〇年)

内村 鑑三 (キリスト教思想家)

福音主義信仰と時事社会批判に基づく日本独自のいわゆる「無教会主義」を唱えたキリスト教の独立伝道者。

二十九日 (水) 令和二年 (二〇二〇年)

志村 けん (コメディアン)

ザ・ドリフターズのメンバーとして活躍する傍ら、亡くなるまで自らが持つ番組でコントを披露し続け、芸能界に大きな功績を残した。

三十日 (木) 天保十三年 (一八四二年)

ヴィジェ・ルブラン (画家)

十八世紀フランスを代表する女流画家。高い描写力と気品漂う洗練性の高い肖像画を制作し、女流画家としては異例の高評価を得る。

三十一日 (金) 享保十二年 (一七二七年)

アイザック・ニュートン (物理学者)

「ニュートン力学」を確立した、近代物理学の祖。現代の科学技術にも大きな影響を与えている。

本当はこわい… 冠婚葬祭のおきて

2022年9月8日号
週刊新潮

冠婚葬祭の掟の本当の「こわさ」は、知らなくてうっかりやらかしたとか、そういうところにあるわけではありませぬ。「自分は完璧」と思っている人ほど、根深い失礼をしがちという一面があります。

並べ方だったとしても、葬儀の最中に喪主を叱りつけ、会場の雰囲気最悪にせねばならないほどの過ちではないはず。

参列した親戚のお通夜で、別の親戚のおじさんが祭壇を見るなり激怒しました。「誰だ、○○さんの供花をこんな場所に並べたのは！」どうやら「上座・下座」的なことを指摘していたようです。葬儀屋さんがあわてて場所を入れ替え、ご主人を亡くして悲しみにくれている喪主のおじさんが、おじさんに平謝りしていました。それでもおじさんの怒りは収まらず、奥さんへのお説教がしつこく続きます。人生において、あれほど失礼千万な場面は見たことがありません。掟破りの

このおじさんほどではないにせよ、掟という魔物に操られ、細かいケチをつけて当事者に辛い思いをさせる人は、しばしばいます。葬式の場合に「慣れている人」はいないので、多少の落ち度は仕方ありません。葬儀にせよ結婚式にせよ七五三にせよ年中行事にせよ、もつとも大切なマナーは「多少のことには目をつぶる」ということ。地域による風習の違いもあれば、当事者の考え方や事情もあるし、対応力の限界もあります。「そのやり方はおかしい」と指摘するのは、失礼で迷惑な所業でしかありません。

こういう事がありまして、「子どもが小学校に入學するとき、両方の実家から何の相談もなくランドセルが届きました。ウチの実家は『女親の実家が買うものだ』と言うし、夫の実家も『男親の実家を買うのが当然だ』と譲らなくて……」片方だけを使いましたが、たまにもう片方を背負った姿を写真に撮って送るという面倒なことをしたとか。どちらの実家も、それぞれ「当然の掟」があったのでしょうか。相談なしだったのでしよう。相談なしというのもすごい話です。掟を守ったおかげで、残念な状況を招いてしまいました。掟のせいというより、両方がチンケなプライドに支配されていたせいかもしれませぬ。いずれにせよ、恐いことです。

「きちんと」が裏目に

掟という強力な存在に振り回されないために、念入りに自分に言い聞かせておきたいのは次の3点。「マナーに普遍的な正解はない」「ほとんどの状況では『正解』より大事なものがあつた」「自分が抱いた怒りは、たいいていの場合『顔をつぶされた』的なセコい見から生まれている」「じつは、どんな失礼にも当てはまる話です。とくに冠婚葬祭は、関係者全員が多少なりともテンパって、『きちんとやらなければ』という思いを持っている分、ムキになりがち。地域や家ごとの風習の違いなんて、生真面目に衝突しないで面白がればいい話なのに。」

冠婚葬祭のマナーやルールがしつかり決まっているのは、悪いことばかりではない、ありません。おかげで、主催側も参加する側も無難に体裁を整えられるという一面もあります。掟と適度な距離を取りつつ、いかに気持ちを入れ込めるか。大人の知恵と技を存分に発揮しましょう。

別名「葬式祭り」 秩父の奇祭 ジャランポン祭り

ジャランポン祭りは、埼玉県秩父市の下久那地区で江戸時代から続く由緒あるお祭りです。かつて、陸の孤島だった場所ので疫病が流行ってしまった時に疫病退散を願って人身御供を神様に捧げたことが始まりと言われています。

僧侶役は般若心経をあげて、死人役の名前や、地域にきた由来、家族のことについて冗談を交えて読み上げます。そのあとはお酒も飲んでいるので、データラメです。台詞は決まっていなくてぜんぶアドリブです。歌を歌うことも。2時間ほどの儀式が終わったら、夜道を諏訪神社まで移動して、遺体役の人が締めめの挨拶をしたあと万歳三唱をして終了です。

ジャランポン祭りのその「イイ加減さ」こそが100年以上も受け継がれてきた理由なのかもしれません。コロナ禍で2020年から中断されていますが、今年は開催される事を願っています。



2022年3月17日
いい葬儀 コラムより



仏壇 & ご供養品 ニュースあれこれ…



お仏壇のサブスク

岐阜市内で仏壇店を営む「お仏壇の春堂」は、岐阜県内初となる「お仏壇のサブスク」サービスをスタートします。このサービスを通して、「お仏壇を買いたいけど高くて買えない」「お仏壇を持ち続けることができないが故人は供養したい」などといったニーズにこたえてまいります。

お仏壇と仏具を、お
選びいただけ、月額
3000円のみで故人
様を弔うためのお仏壇
を手にしていただくこ
とができます。また契
約満了の3年が経過し
た後の処分費用も無料。
「せめてしばらくの間は、
自宅で供養したい」とい
う方に向けたサービス。
お気に召した場合には、
買取も可能です。

2023年1月18日PR
TIMES(株式会社大野春堂)

携帯正座椅子
PATATO正座
がりニユーアル

折りたたみ正座椅子「PATATTO正座」は組み立てが簡単、開きながら押すだけで完成します。座面は平らではなく、お尻にフィットする曲面仕様になっています。太ももの裏が座面と干渉しにくい形状になっているため、長時間正座する法事や習い事で足がしびれるのを軽減してくれます。重さは、わずか180gと軽く、畳んだときの厚みもわずか3センチ。A4サイズが入る鞆で気軽に持ち運びができます。耐荷重は100kgあり、安心してご利用いただけます。



2023 年 1 月 23 日
PR TIMES(SOLCION)

遺骨の一部を
ジュエリーにして
「手元供養」

株式会社メモリアル
アートの大野屋（東京
都）は、いつでも身近で
故人を偲ぶことができ
るよう、遺骨や遺灰・想
い出の品の一部を収納し
供養できる手元供養品
「ソウルシリーズ」の販
売を開始しました。

大切な方の遺骨の一部を小さな容器に納めて自宅の寝室やリビングルームなど身近に置いたり、ジュエリーに納め毎日身に着けることで、大切な方との絆を感じることができ「手元供養」を、新たな供養の選択肢として提案しています。近年、生活スタイルの多様化によつて、葬送の形式も従来の宗教・慣習にとらわれない様々なたちが求められるようにな

り、特に「核家族化」の影響によって、「供養のパーソナル化」が進行し

ていることが、手元供養のニーズが伸びている要因の一つです。

当社では、身に着けるジュエリータイプ、デザインされた小さな骨壺など、「ソウルシリーズ」として、直営店とオンラインストアで販売。

また、全国の葬儀社・仏壇店・石材店への卸販売も行っています。手元供養は身近でいつでも供養することができることや、現代の洋風的生活空間にマッチした優れたデザインも人気の理由です。



2022年10月11日
PR TIMES
(株式会社メモリアルアートの大野屋)

世界のお葬式



花々に飾られて
鐘の音に送られて
【ドイツ】

ドイツ人の多くはキリスト教徒で、かつて教会は埋葬に対しても権限を持ち、原則的に教会がそれを執り行っていた。カトリックではキリストが土葬されたといひ伝えられているため、当時、異教徒のものである火葬は固く禁じられていました。そのため今日でも、ドイツ全土での火葬率は40%以下で最も一般的な埋葬の方法が土葬です。一般的に、黒や褐色で八角形の舟形木

製棺。内側には、シルクや紙などで作られたシートが敷いてあり、花で飾られ、月桂樹を施したスタン্ডに支えられます。死亡の通知は地方新聞に広告を出すのが普通で、友人や知人は訃報を知ると、遺族に花輪やカードを贈ります。また、印象的なのが葬列です。都市部では条例により廃止されていますが、地方では、いまでも昔ながらの葬列を練り広げることがあります。黒の喪服やシルクハットを身にまとった遺族や会葬者が、黒い布を垂れかけた馬車の霊柩車や棺持ちのの手によつて運ばれ、その後ろをしずしずと、墓地まで歩くのです。ときには、先頭にブラスバンドが立ち、葬送曲を演奏することも。教会は、葬列が続く間、鐘の音を打ち鳴らし、死者への尊敬の念と参列者への弔慰を示します。

今日は 何の日？

3月(弥生・March)

1日(1938年)

タクシー
メーター導入

京都府のタクシー会社が日本初のタクシーメーター制を導入。この年の11月から全国規模に。

2日(1963年)

ビートルズが
初アルバム

ビートルズの最初のアルバム「ブリーズ・ブリーズ・ミー」がイギリスでリリースされる。

3日(1970年)

「an・an」が
創刊される

20代・30代の女性をターゲットにしたファッション情報誌「an・an」が創刊される。平均発行部数は21万部弱。

4日(1967年)

外国人初の
関取誕生

ハワイ出身の高見山が新十両初の外国出身外国籍の関取となる。翌年1月には幕内力士に。1984年に引退。

5日(1970年)

「核拡散防止条約」
が発効

核兵器の保有制限、他国への譲渡・製造・取得の禁止など、核軍縮を進めるための条約の一つ。

6日(1946年)

「日刊スポーツ」
が創刊

日本初のスポーツ新聞「日刊スポーツ」(タブロイド判4ページで一万五千部)が創刊される。

7日(1980年)

山口百恵が
引退発表

前年10月に恋人宣言した三浦友和との婚約と引退を発表。同年10月に引退、11月に結婚。引退時の年齢は21歳。

8日(1914年)

日本初エスカ
レーター設置

東京・上野の大正博覧会会場に日本初のエスカレーターが設置され、試運転が行われる。

9日(1959年)

バービー人形
発売開始

アメリカでバービー人形の発売が開始。ファッションナブルで精巧な作りが支持され、爆発的にヒットする。

10日(2009年)

C・サンダース
発見

1985年の阪神タイガース優勝時に道頓堀川に投棄されたカーネル・サンダース人形が24年ぶりに発見される。

11日(1960年)

パイオニア5号
打ち上げ

アメリカで、太陽の最も近くをまわる探査機「パイオニア5号」が打ち上げられる。

12日(1974年)

小野田さんが
帰還

陸軍軍人の小野田寛郎さんが、フィリピンのルバング島から30年ぶりに日本に帰還する。

13日(1937年)

日本初の
プラネタリウム

大阪の電気科学館に日本初のプラネタリウムが設置。東洋一で約9000個が投影可能。

14日(1970年)

日本万国博覧会
開会

日本で最初の国際博覧会である大阪万博が開会。77カ国が参加。9月13日に閉会。

15日(2013年)

新幹線200系
電車引退

1980年に発表された新幹線。側窓を囲んだ緑色のラインが特徴で、登場時には「緑の疾風」の愛称があった。

16日(1934年)

日本初の
国立公園が指定

内務省が、瀬戸内海・雲仙・霧島の3カ所を日本初の国立公園に指定。国が保護・管理を行う。

17日(1988年)

「東京ドーム」
がオープン

老朽化した後楽園球場に代わり開場。読売ジャイアンツの本拠地。愛称は「ビッグエッグ」。

18日(1946年)

婦人警官を
初採用

警視庁に初めて婦人警官が63人が採用される。応募者数は1673人で、26.5倍の難関となる。

19日(1927年)

アカデミー賞
設立

映画の芸術・科学の発展を図るため、アメリカのハリウッドの映画業界関係者を中心に設立。

20日(1951年)

日本初のLP
レコード発売

「日本コロムビア」から日本初のLPレコードが発売される。発売時の名称は「長時間レコード」。

21日(1909年)

日本初の
マラソン競争

大阪毎日新聞社主催の神戸〜大阪間長距離競走が開催。初めて「マラソン」の名称が使われる。

22日(1896年)

「日本銀行」が
落成

東京都中央区日本橋本石町に「日本銀行」本店が落成。設計者は建築家の辰野金吾。

23日(1930年)

自動信号機
第1号が設置

東京の日比谷交差点に、赤・青・黄の3色による電気式信号機が設置。それまでは手動式だった。

24日(1882年)

結核菌の発見

ドイツの医師、ロベルト・コッホによって結核菌が発見された。3月24日は世界結核デーと制定されている。

25日(1878年)

日本初の電灯が
点灯される

銀座に開設された中央電信局の開局祝賀会で50個のアーク灯が点灯。後に「電気記念日」に。

26日(1958年)

日本人初の
アカデミー賞受賞

ナンシー・メイがハリウッド映画「サヨナラ」で東洋人の俳優として初のアカデミー賞を受賞。

27日(1689年)

松尾芭蕉が
「奥の細道」の旅に

松尾芭蕉が江戸を立ち、東北・北陸の旅に出発する。この旅を綴ったのが「奥の細道」。

28日(1876年)

廃刀令が
発布される

大礼服着用者、軍人、警察官以外の帯刀を禁止する廃刀令が発布。氏族の帯刀が全面禁止された。

29日(1925年)

「普通選挙法」
が成立する

成年男子による普通選挙を規定する「普通選挙法」が加藤高明内閣によって成立される。

30日(1968年)

「巨人の星」が
放送開始

テレビアニメ「巨人の星」の放送が開始。「スポ根アニメ」の代名詞的作品として人気を博す。最高視聴率は36.7%。

31日(1889年)

エッフェル塔
落成式

パリ万博に合わせて建設されたエッフェル塔が完成。フランス人技師のエッフェルが設計。

